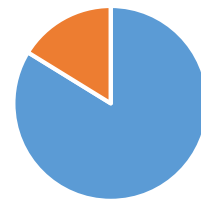




「本当に、温暖化しているのかな」

長梅雨だった今年の7月。時に豪雨をもたらす梅雨前線の活発化は、地球温暖化の影響を受けているという記事を読みました。日常生活に温暖化の影響を感じることはあるかどうかを、クラス全体で確認しあったところ、84%の子どもたちが、“感じる”と回答しました。最近レジ袋が有料化になった日常生活への影響や、昨年度のスキー教室延期の経験、そして温暖化の影響を伝える報道などが、その主な理由でした。どちらともいえないという子どもは、「自分では感じていない」「日常的に温暖化しているのか?」といった理由から、“はい”と言い切れない部分があると話していました。「自分では感じていない」というAくんの意見から、「おうちの方のアンケートを読んで、35℃なんてなかったというコメントがあっぴびっくりした。ヒストグラムをつくって確かめたい」、「私はSの言っていたように、たしかに自分の体で感じていないので、ハッキリしない。ヒストグラムをつくって、比べてみたい」という意見がありました。「温暖化を実感するのならば、気温の変化をグラフにまとめてみよう」というアイデアがBくんから提案されました。そこで、「私たちは、温暖化の中に生きているのだろうか」というテーマのもと、ドットプロットやヒストグラムを作成して、温暖化している様子確かめる学習活動に取り組みました。

日常生活の中に
温暖化の影響を感じることがありますか

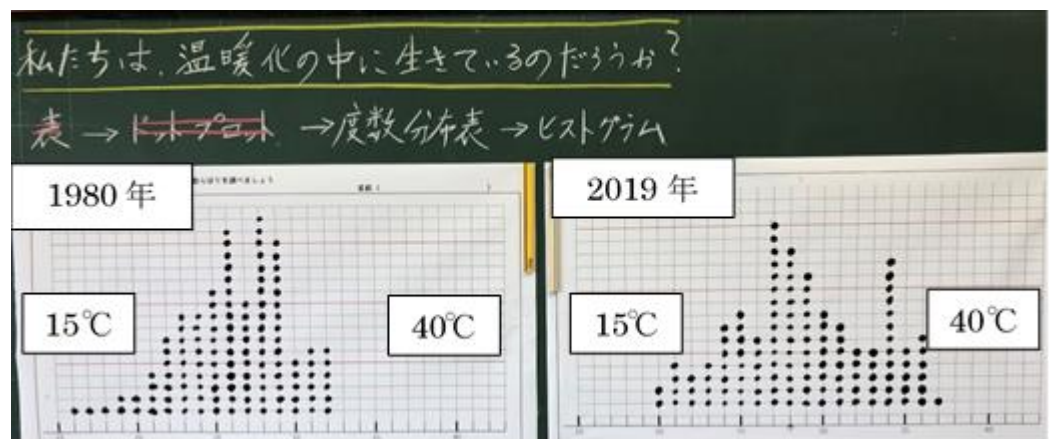


■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ

1980年と2019年の6月から9月までの最高気温をドットプロットや度数分布表、ヒストグラムに整理するために、まずは表づくりに取り組みました。「個人でやろう」ということになり、各自取り組むのですが、結果にばらつきが出ます。そのうちに、CくんとDくんは、データを読み上げる役に、データを表に記録する役に分かれて活動していきました。それをクラス全員でやろうということになり、学級全員で表づくりに取り組みました。より正確に、より速く、より簡単に取り組む方法を、仲間と一緒に試していくことが楽しいひとときでした。「おお、みんなでやると、速いし、正確だ」という感想が聞こえてきました。

「温暖化の根拠がみえてきた」

さらに、2019年のデータをまとめていると、1980年には記録されなかった最高気温である36℃や37℃が記録されます。すると「やっぱりきたな!」というつぶやきも聞こえてきます。予想していた温暖化を示すデータを、実際に表やグラフに記録することで、可能な限り温暖化を実感できそうだという見通しが現実になっていきました。度数分布表をつくった時には「温暖化の中に生きているんじゃないかな。2019年は、1980年と比べるとずいぶん暑い日が多くて25℃以上の日数が多い」「30℃以上から40℃未満は、1980年はなかったけど、2019年は12日もある。温暖化を感じた」「1980年は25℃～30℃が多かったけれど、今は30℃～35℃、35℃～40℃が増えてきている。今やらなきゃいけないことをみつけな



いと、40年後には、40°C~45°Cもありえると思った」という気づきが生まれてきました。“温暖化しているようだ”という私たちの感じ方が、根拠をもった“温暖化している”へと変化していくように感じました。

いよいよヒストグラムづくりです。1980年と2019年のヒストグラムを個人で作成しました。また黒板の模造紙も、子どもたちが進み出て仕上げをしていました。

このヒストグラムを比較したところ、「1980年は、25°C以上 30°C未満の日数が最も多かったけれど、現在は、25°C以上 30°C未満の日数と、30°C以上 35°C未満の日数に差がなくなった。これにはびっくりした」「全体的に、2019年は気温の高い方に、日数が移動している。こうやって比べてみて、本当に身近に温暖化があることが実感できた」という考察がありました。

実感から納得を求めて学ぶ子どもたち。それは数値を目的に応じて整理する活動の中にも見られます。

私たちの学級では、納得を求める学習を大切にしたいと考えています。

